

鳴海周平の

ぶらり旅

京都府・滋賀県

京都晴明神社と琵琶湖周遊ヒーリングツアー編

11月9日から2泊3日で開催された「京都晴明神社と琵琶湖周遊ヒーリングツアー」。

とある昔、某・長典男^{のりお}さんから「なるみんとは、かつて陰陽師として術をかけあっていましたねえ」と云われたことが、この旅のきっかけになったとか、ならなかったとか：(笑)

五芒星のエネルギーに導かれた旅のはじまり、はじまり。

琵琶湖畔に建つ彦根城で只者ではない気配を感じたら、それはきっとひこにゃんでしょう。



湖底から宇宙へ向かって伸びる「地球のアンテナ」のようなエネルギースポットの竹生島に約1時間滞在しました。



石山寺の奥にある八大竜王社。森のなかに佇む御社が、周囲の池や滝とともにやさしいエネルギーで迎えてくれます。

たびの締めは、天智・天武・持統天皇の産湯に用いられた霊泉があることから「御井の寺」と呼ばれるようになった三井寺（園城寺）。数々の映画が撮影されている有名ロケ地でもあり、とてもやさしい氣に満ちたエネルギースポットでした。

このたびも、時と場所と人のご縁をしみじみと感じたエモいヒーリングツアーをご一緒いただいたご参加者の皆さま、関係各位にあらためて感謝申し上げます。

どうもありがとうございました。

本誌41ページもあわせてお楽しみください。



昼間に各スポットからいただいたエネルギーを、夜に発散しているのでしょうか（注：仮装大賞開催中、ではありません）

長さんからいわれたひとことで、魂が過去の記憶を思い出したのか、なぜか落ち着く京都の晴明神社。平安時代、6代の天皇に仕えたという陰陽師・安倍晴明が祀られています。

野村萬斎さんや羽生結弦さんや鳴海周平さんなどのイメージから、さぞかし美形だったであろうことが想像できます。（ここ、大事なこと）

百人一首の巻頭を飾り、日本初の時計をつくったという天智天皇を祀る近江神宮、琵琶湖に浮かぶ浮御堂へ立ち寄り、1泊目はおごと温泉の

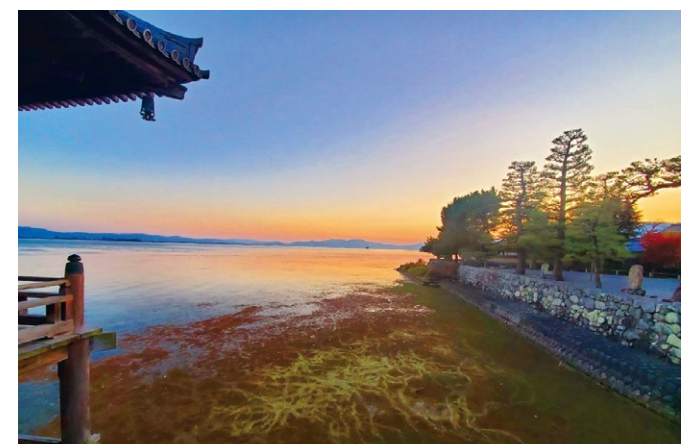


旅のスタートは京都晴明神社から。五芒星の結界がはられた境内にいと陰陽師だった頃の記憶がよみがえる(かも)

花街道さんへお世話になりました。

2日目は船に乗って古来より信仰を集める竹生島へ。宝厳寺本尊の大弁財天は江ノ島、宮島とならぶ「日本三弁財天」のひとつで、島名は「神を齋く島」から「つくぶすま」「ちくぶしま」へと変じたのだそうです。

3日目は豊臣秀次が開いた城下町で、近江商人でも知られる近江八幡地区を散策。レトロな街並みには、フォトジェニックでインスタ映えしそうなスポットがたくさんあって、



浮御堂からのぞむ琵琶湖の夕景は、時間が経つのを忘れてしまうほどの美しさ。

フォトジェニックとインスタ映えはおなじ意味だということも忘れてしまいうほど、ノスタルジックな感情が沸き起こる超エモいところでした。（言葉の使い方、合ってる？）

午後は巨大な硅灰石の上に建つ石山寺へ。境内全体が磐座のような国の天然記念物で、国宝になっている本堂には紫式部が「源氏物語」を書いたといわれる「源氏の間」もあります。ベストセラーを書くためには、まずは環境からなんです、紫さん！（……実力です。by紫）



2泊目でお世話になった彦根キャッスルリゾート&スパさんからみえる彦根城。朝景も夜景も素晴らしい！



滋賀県で事故防止のために日々活躍している飛び出しくん。飛び出し小僧やとび太くんなどとも呼ばれ、たまに飛び出しガールも出現するとか、しないとか。



近江八幡地区で紅葉のなかを歩いては、たねやさんでお菓子を食べて、また歩いてはクラブハリエさんでお菓子を食べてを繰り返したので、カロリーは±0。